



Q. 岡山シーガルズに関して、どの程度の改善を要求しているか

- 役員構成や株主構成の一つ一つについての要求をおこなう権限は SVL にはない。ただ、クラブがどのように改善していくのかを提示し、それに対してステークホルダーの方々が納得をされているかということは最低限確認したい。

Q. 岡山シーガルズの事前報告がなかった増資に関して、後追いで承認したのか

- 当時の規約では、30%以上の資本移動があった場合は理事会の事前承認が必要。それ未満の場合は事前報告を求めている。

今回は 30%未満だったため、理事会の決議は不要だが、必要な「事前の報告」を怠っていたということ。株主構成をどうするかということは事前に相談を受けていたが二か月以上さまざまな話をしていた中で、最終的な判断に関して相談も事前報告もなかった。事後に増資をしました、取締役を一人解任しました、という報告をしてきたという状況であった。

Q. 岡山シーガルズの各ステークホルダーと話をしたのか

- SVL が直接、岡山市長や銀行の頭取、商工会議所の会長などとコミュニケーションはとっている。

Q. 岡山シーガルズが二日前頃から色々な動きがあったと聞いているが、今回の判断にどう起因しているか

- 制裁を科すとなると弁明の機会もあり、クラブ側の思いも聞いている。クラブからは口頭でガバナンスを立て直すということは聞いている。とはいえ、期限を設けて実際に皆さまにも納得いただき今後良くなるだろうという（確信が持てるかどうか）確認をしたい。

Q. 岡山シーガルズが役員を一新したそうだが、そういった点も含めて今後の経過を見ていくということか

- 本来、取締役や社長が交代した場合、クラブのホームページなどで発表をすることが多いかと思うが、私の知る限り、あまり広く発表されていないのでは。前体制からは大きく変えたということは理解はしているが、本当にガバナンス強化や株主構成について改善していくのかを検証していくことになる。

Q. ヴォレアス北海道に対してクラブ SVG ライセンスの交付に至った経緯について

- 2025年6月期の決算で当初、出資いただく前提で見越していたものが無くなってしまったために1億円強の債務超過に陥ってしまったという状況だった。したがって、直近期が債務超過の場合はクラブ SV ライセンスの交付はない。しかし今回、(今期について)資本の増強が確認できたため、1シーズンに限り SVG ライセンスに留まるという措置を講じることとなった。また、2026年6月期の決算にて債務超過に陥る心配は基本的に無いだろうということを確認し、理事会での承認に至った。2026-27シーズンにおいて MEN 12 クラブで編成するということは決定事項であったため、SVG ライセンスが交付されたチーム、かつ SV リーグに参入する気持ちがあるクラブのなかで、事前に定めていた評価軸に基づき協議した結果、ヴォレアス北海道のクラブの勢いや地元での盛り上がりなどを考慮して満場一致で特例として SV ライセンスを交付する運びとなった。

Q. ヴォレアス北海道は今後の財務状況によって取り消しになる可能性はあるのか

- 2026年6月期の決算で債務超過になってしまった場合、SVライセンスは交付されない。

Q. ヴォレアス北海道が仮に2026年6月期決算で再び債務超過になった場合はSVGライセンスも交付されないのか

- 基本的に最長で二年連続債務超過になった場合は、SVGライセンスも交付されない。

Q. ヴォレアス北海道への期待と今後の課題について

- もともと2億円台の売上だったが、7億円を目指せるようなところまで急成長されたというのは、さまざまな施策を行ってきた結果、花が開いたということであり、尊敬している。特定の親会社を持たないなかでここまで努力をされたということは素晴らしいことである。一方、うまくバランスをとってクラブの財務面全体をコントロールされる役割の人員がいた方がよいのではという思いはある。近い将来としての懸念事項であるアリーナをどのように展開していくのかという点については注視していきたい。

Q. 2026-27シーズン、MEN 12クラブで開催することを掲げていたなかで、今回正式に決まったことの期待感について

- バレーボールのポテンシャルは世界的な強豪国であるということ、過去10年と比べると少子化になり他の競技は競技人口が減ってきているが、バレーボールは減っていないこと。さまざまな要因はあると思うが、ママさんバレーボールなど裾野が広い競技である。時代の流れとともにサッカーやバスケットボールに抜かれてきた部分は正直あると思うが、ポテンシャルを最大限に生かせば12チームに留まらず、16チームなどもっと大きくなっていくのではと考えていた。ヴォレアス北海道の出資がうまくいかないトラブルはあったが、解決の見通しもあるため、12チームでの編成はこれからへの第一歩であると思っている。ただこれが終わりではなく、代表の強化や選手層、来シーズンから外国籍選手のオンザコートも増えるなかで、日本人選手の活躍の場を提供するということも考えながらクラブ数のことを検討していきたい。

Q. 北海道イエロースターズ、フラッグラッド鹿児島は、【施設基準】トイレ要件対応計画の提出のみ不足しているという状況ということか

- はい。財務条件やその他の要件は確認している。アリーナのトイレ要件については少なくとも数の問題は改善してほしいというもの。

Q. 新たに SV リーグに加わった北海道イエロースターズ、フラゴラッド鹿児島への印象や期待感について

- 北海道イエロースターズは札幌がホームであり、札幌に住んでいる方も報道関係者もスポーツに対してとても熱心であるという印象。そのようななかで、親会社である武ダ GEAD 株式会社のバレーボールの元気なチームを作りたいという意欲を非常に強く感じており、盛り上げてくれるのではと期待をしている。

フラゴラッド鹿児島は 4 万 5 千人ほどの人口である日置市がホームタウンでありながら、私が見たバレーボールチームの中で、男女問わず非常に幅広い年齢層のファンの方が来場されていて、とても熱気がある。さらに、市長をはじめ行政の方々とファンが一体となって日置から世界へという熱も感じている。小さい町から SV リーグのトップを目指していくという意気込みを非常に強く感じており、町が活気づくことを期待している。

Q. 北海道イエロースターズが札幌にアリーナ建設を考えていることについて

- 建設の話は直接聞いている。現状資材の高騰や建設場所などさまざまな課題が出てくると思うが、リーグでもサポートできる場所はしていき、良い方向に進められれば。北海道、札幌にとってどのような形が一番良いのかを考えてやっていければと考えている。

Q. 北海道に SV リーグクラブが 2 つになることに関する期待感について

- 他のプロスポーツでは見られない北海道ダービーという白熱した試合が見られることは今から非常に楽しみ。

以上